

・・・雨でも休まず、182回、183回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動1：小原本陣の森：1月 7日：第一土曜日、森林整備、参加費・なし
弁当持参 9時15分、JR相模湖駅。車分乗で行く。
午後多分、神事のお祝いになる。自分のお神酒、持つておいで
- ・定例活動2：若柳嵐山の森：1月 15日：第三日曜日、里山交流、新年会
午前中：森と森を貸して下さる鈴木様に新年の挨拶
軽作業、神奈川建具組合とも合流予定。
午 後：新年会、於：五本松
参加費：男4千円、女3千5百円
- ・服 装：汚れても良い格好、着替え、滑らない足元。
- ・持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて・・・保険証。
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしない心構え」

杉を考え直す

少し見直されてきたようだが数年前には、「あの黒木が！」と杉をさして、吐き捨てるように言う人が多かった。見てくれ良く加工されて安く手に入る外材が入るようになって国産材の代表：杉・檜が割高で、また杉花粉の被害などから杉を敵視するのだ。

花粉症は、見てくれの外材合板の接着剤に使われるホルムアルデヒド(HCHO)等、有機化学物質などが体内に取り入れられて抗体が反応するのが原因である。目先の経済効率だけで人間の都合で植物の責任転嫁している。昔は、花粉症などなかった。

登呂遺跡から杉板が出てきた。赤身の多い杉板は船材として使われていた。杉は工芸品として貴重である。今年、砂防ダム工事現場から貰った杉に黒い芯のものが多くなった。木を扱う人から「こんなもん何にもならん」と言われたが、技術が売り物の建具組合が大喜びで全量を引き取ってくれた。黒いのを選んで特選品を作るそうである。風呂は檜より喜ばれる。素晴らしい黒色の腐りにくい風呂が出来るそうだ。水周りには最高だそうだ。酒樽はスギでつくり日本酒の香に欠かせない。柔らかい肌触りを好む人もいる。加工性・保温性・吸湿性に優れる。

我々の「若柳嵐山の森」の杉は、かつて京都の北山杉として出荷されていたそうである。嵐山北斜面・相模川沿いの杉は、真っ直ぐにそそり立っている。見ていると背筋を伸ばしたくなる樹形だ。杉という名前そのものが、まっすぐ一すぐースギと変形して落ち着いた名前と考証される。こここのスギは、年間成長量が約20立米だから、大切に扱ってくれる建具組合だけに使ってもらおうと鈴木様との了解事項とした。製品には、「緑のダム：FSC嵐山杉」の製品保証を付ける。

緑のダム：新たな出発

石村 黃仁（こうじ）

森林に関わる世界の英知を集めた森林管理協議会の指導するガイドラインと「楽しく、急がず、無理せず、雨でも休まず、ボチボチと・・」と指導する園田安男を得て、活動の8年目に国際規準の森林管理に達した認証を受けた。そして、認証されて改めて我々が森のことを未だ、何も知らないことに愕然としている。初心に戻って新たな出発を考えねばならない。



新たな出発を考えると言っても、一般方向は変わらない。即ち卓越して最上位の考え方と求心力に収斂する「森林破壊という負の遺産を残してはならない」と言う理念である。

若柳嵐山の森：里山交流の森

「木を伐る人にさえ木陰を与える、若柳嵐山の森」に家族連れ、学生、サラリーマン、年配者、性別・経験、国籍問わず人々が集る。組織は全てに門戸を開放した円の組織である。前出の「理念」だけが中心に位置して指令を出す。活動は、面白さ・楽しさ・意外性・創造性に満たされている。「森の中の喫茶ムササビ亭」さえ繁盛している、誰にでも開放された森である。

地主の鈴木重彦オジイサンは16代目である。代々、名木を育ててきた家系だ。こここの木は、かつて京都の北山杉と並び称せられていた。今でも真っ直ぐそり立つ木を見上げると背筋を正したくなる。こんな森の木がFSC認証材として出荷できるようになった。

この木を最大限に生かして商品化できるのは、5代・10代と伝統の技を引き継ぐ建具職人のみである。神奈川県建具協働組合と提携して「緑のダム・嵐山FSC材」を、わが国、古来の伝統の技術に生かして後世に継承してもらうことも、この森の活動が50年、100年と続くために必要である。

小原本陣の森：森林整備の森

園田 安男



日本の森が荒れているといわれながらなかなか局面が変わらないのは、時代の変化に関わらず「森林の未来」が描けないからといえるでしょう。その状況で緑のダム仲間がここに集るのは森林に経済的な価値に期待するのではなく、豊かな森林をはぐくみ地域と環境にお役に立てばよいという意識です。これが都市住民の一般的な意識でしょう。これが森林を抱え持つ山間地域の人たちと共有されれば森林の活性化に向けて協働行動が取れるのです。

昨年4月から始めた「小原本陣の森の活動」では、地域の人々がこれまでと違う意味を感じて、私たちと一緒に活動して、共通の意識で森林を活かしていくところに意義があります。小原の人々と私たちとの良好な関係は、ほんとに、まれなことです。都市住民と地域住民がこ

んな関係にあることを全国に見られる荒廃した森を蘇らせる道として、何らかのモデルになれば、と思っています。森林に関心を持つ人たち、みんなが一緒に未来を描くことが大事なことです。

戦後、大量のスギ、ヒノキを植えた人たちは、数十年後に子や孫にいくらかの財産を残せるという期待と未来を夢見て植林に励みました。結果は思惑とおりになりませんでした。しかし、「森の未来を見て、森に通った」と言う事実は、確かなものです。期待通りの結果になれば申し分ないのですが、たとえそうならなくとも泣くことはないのです。その想いを後の世代が引き受ければいいのです。

「一緒に未来を夢見て、ともに汗をかく」というのが私たちの「小原本陣の森」です。その未来の森を」どんな森にするかは、小原の人々と一緒に考え方行動に移そうと言うことです。

— 活動報告 1 : 小原本陣の森、森林整備

報告 佐伯みちよ

12月3日、第一土曜日定例活動日、さすがに寒くなった冬空にベテランクラス28人の参加。

先月、完成した作業道を登って登って、息の上がった辺りでボサ刈り、もうチョット登って肩で息をする辺りで間伐、そして登りきる手前から下方急斜面で4mの枝打ちをした。

ボサ刈り班にいた私から言わせると、ボサ刈り班というよりは、蔓きり班といって良いくらいだったが、いよいよ寒くなった山で、たまに射すお日様に身体を温めてもらいながらの作業となつた。

一方で、先月末完成に終わった作業小屋の組み立ては、やはり反った木材の影響や、バッテリーの故障のハプニングに会い、なかなか完成に至らないが、そこで着替えたり、作業道具を保管できる日も近い。

そして今回注目すべきは、炭焼き窯つくり。嵐山で断念した炭焼きを小原の人が教えてくれるということで、永井さんが地元の炭焼きの達人、塚本さんという強力な助っ人を連れてきてくださった。昼には、長方形に掘った土の枠が出来上がっていて、午後にはもう、土の壁面に石が積み上がって直ぐに窯だと分かる姿を表わしていた。作業小屋と炭焼き窯も、あと屋根部分で完成となる。

小原炭窯 第3日曜 その2 投稿者: やまと 投稿日: 2005/12/19(Mon) 01:04 No.27

釜の中に敷き詰める材の準備。
太さ別に分け、長さ約一尺に揃える等、指示が出て一齊作業。
「一尺って、何? どれくらい? 通訳して~」の声



* お知らせ: 私たちの「小原本陣の森活動」を地元の人たちに知ってもらうため、報告書を毎月、小原町内会の回覧板に入れてもらうことになりました。この報告は、山本昌子さんと佐伯みちよさんにして貰うことにしました。町内会と相互信頼のためにも。

活動報告2：若柳嵐山の森：今年最後の里山交流

12月18日、今年最後の活動日は、快晴・寒風。

園田総隊長から「3日に取り組んだ小原本陣の森・炭窯つくりを18日・今年中に完成させろ」との特命事項が突如、飛び込んできた。斎藤仲間が塙本炭窯指導員との連絡に奔走した。人員手配が間に合わない。・・んなら、JR相模湖駅で網張って一網打尽、拉致するべしと待ち構えた。それが見事に成功した。

一方、ベテランを拉致された「若柳嵐山の森」は、どうか。

望星高校の宮村教諭に引率された13名、NPO法人シュタイナー学園高校の増渕教諭に引率された10人等、本部を守る陣容は大混乱の陥った・・・と思うでしょ。あに図らんや、宮村・増渕教諭を核にする「

young power

Re: 巻き枯らし実験報告 はやし - 2005/12/22(Thu) 12:35 No.156

一部の木では、残った樹皮のすきまから樹皮が再生する様子がつかがえました。
樹液をたらして、それが固まって木質化しているように見えました。
恐らく、樹皮をはぐ範囲が30cm程度だと、
再生によって樹皮がつながってしまうこともあるかもしれません。
強い生命力を感じます。

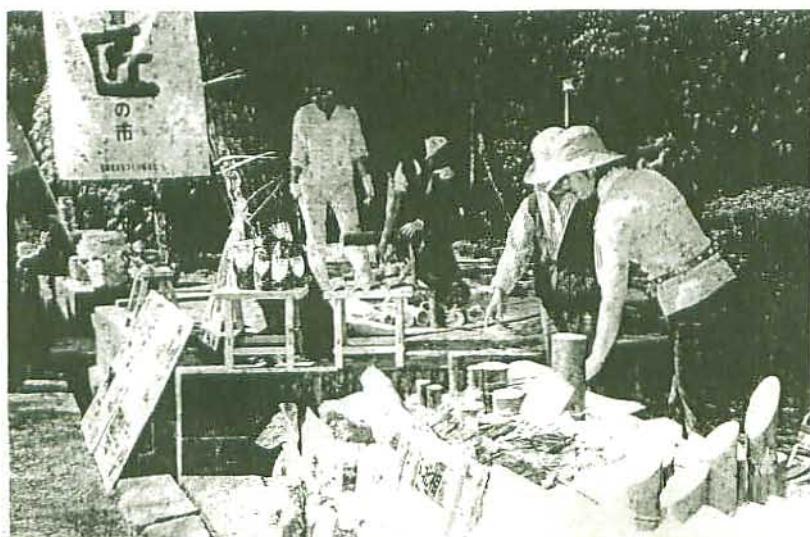


はたまた、オッカサン炊事班は、寒風吹きさらす集合広場で「お

昼には暖かい物を食べさせたい」と奮闘した。気が付くと雨水をためるドラム缶に2cmを越す氷の上で蟻がアイススケートを楽しんでいた。

オッカサン炊事班の心温まる「暖かいもの」を速水さんと邦久少年が「小原本陣の森」に出前した。本陣班の喜んだことは言うまでもない。この日、参加、合わせて72人。驚くべし、この日、炭窯に火が入った。当会は、何が起ころうと全てに調和する。

報告1、「緑のダム北鎌倉」を独立採算制活動にする・・・。



正確には、そうしたい・・・、と兼松まゆみから申し出があった。いいんでないかい。環境問題を経済的に自立して活動することが当会の目的だから。

以下、兼松まゆみの報告。

北鎌倉定例活動報告：12月13日
報告 兼松まゆみ

昨年11月に北鎌倉支部にして、アッと言う間に1年が過ぎてしまいました。この1年、遠きから来てくださる斎藤さん等、鎌倉から参加してくださる方、こんなにな楽しい活動になるとは思いもしませんでした。

この間、緑のダムの一員として都市部での森林広報は十分に果たしました。フィールドを貸して下さる東慶寺の間伐竹を工夫して活動資金の捻出も可能になったことから「緑のダム北相模」は、独立採算活動にして頂きたいと申請します。

13日、名刹東慶寺の寒梅の咲く庭の傍らで小さな焚き火を囲んでささやかに昼食 兼 忘年会をさせて頂きました、東慶寺竹徳利で少しお酒も。仏様に守られて感無量です。

報告2、県産材住宅藤沢

会員鈴木直子設計士による県産材住宅の県学会を12月17・18日実施した。

構造材100%，流域材80%の県産材住宅である。殆ど不可能と言われていたがそれを鈴木は可能にした。匠の会前会長の小林さんも来合わせて「やり遂げる執念、やり遂げた実績を評価する」と鈴木を称えた。



予告1：運営会：認証取得後の新たな出発に向けて、運営会を以下の内容で再開している。

日 時：1月14日（第二土曜日）午後2時～5時
場 所：マルモ出版本社 渋谷区道玄坂1-20-1 大沢ビル
TEL 03-3496-7046
議 題：07年度活動方針・その具体的な方法

予告2：かながわボランタリー基金21：06年度：神奈川県との協働事業審査会

日 時：1月17日(水)午後1時30分
場 所：横浜西口・県民サポートセンター
TEL 03-312-1121
議 題：神奈川県と協働する森林事業の審査

予告2：新月伐採・葉枯らし自然乾燥：緑のダム・FSC嵐山材

市民団体：NPOによる国際認証の森から出荷される材は多分、世界で始めてだろう。その材はその技を世界に誇る「神奈川県建具協同組合」の建具職人さんたちに引き渡すために新月伐採、

葉がらし自然乾燥したもので渡す。

- * 神奈川県建具協同組合：組合員 237 社、わが国最大の建具組合、伝統の技術を 5 代・6 代と守る建具職人集団、イギリスの日本フェアなど古民家を移築や川崎古民芸家、小林古径旧居移築など、伝統建築の粋を後世に伝承している。
- * 新月・葉枯らし：未だ理由が解明されていないが新月の日に伐った木を葉枯らしと言う自然乾燥法で脱水すると、木肌・色は美しくびびが入らない。名素材生産者の河野 東(あずま)にその実物を見せてもらった。そんな材を建具の名人たちに準備する。

見学者・参加者募集 1月28日（水）9時30分～15時0分

人 数 30名：若柳嵐山の森現地集合

参加費 1000円：保険+昼食の暖かい物+資料代

主食は持ってくること

備 考 林床整理などした働きの手伝いあり・・動かないと凍えて危ない。

活動アンケート4、回答。

FSC 本審査に際して提案されたご意見を公開して活動の見直しとして活用させていただいています。前回までは「活動に対する」ご意見でしたが、今回は「会の運営」に対するご意見です。以下、漸次、検討を加え改善を進めますが皆さんから反論、対案、提案、ご意見をお寄せ下さい。

(全般的な会の活動に対する意見)

提案：会の運営が、組織面・運営面での問題で必ずしも上手く言っているように見えない。

NPO の組織と活動の現状を見ると二面性がある。一つは森の体験活動のみを楽しみに参加している会員。もう一つは、森林保全の運動として、他とのネットワークを図り、会を充実、発展させようとしている会員。その双方のギャップが運営に支障をきたしている(正会員)。

回答：会の運営が上手く行っている否かの判断は、何を規準に判断するかということですが、なかなかに難しいところです。そして NPO の組織と活動の二面性は、貴方のご指摘のとおりです。そしてそれが運営に支障を来たすかも知れないことも、そのとおりです。ここで、「…かも知れない」といっておきます。貴方のご指摘の二面性のためにどのような支障があるでしょうか？。 その支障の具体的な内容を教えてください。

二面性的一面、森に楽しみ・面白みを求めて参加する人と、森林保全を真剣に考えて参加する人との割合はいかがでしょう。これを厳密に分けることは出来ませんが私は大体、8：2 くらいだろうと思っています。そしてどちらが会に大切かといえば、どちらも同じくらい大切だと思っています。真剣に考える人たちばかりだと、ケンケンガクガク、言い争いが絶えないでしょう。面白・おかしくの人ばかりだと、まとまりの無いだらしない活動となるでしょう。当会の特徴は、多様性です。老いも若きも性別・国籍・経験の有無も何も問われない、上下関係も無い、出るも入るも全く自由に参加できます。

そんな集団が、何んで森林管理の極地といわれる「FSCの認証林」のなったのでしょうか。こんなことも会の運営を考える条件になります。尤も私は、森林管理の極地と言っても森の事を何も知らない自分のことを恥ずかしく思うのです。内にも外にも沢山の解決しなければならない問題を抱え、解決しようと悪戦苦闘しています。悪戦苦闘する課題があるから活動に意味があります。

最初に戻ります。楽しみ・面白みで参加する会員と、問題意識の高い会員との間にギャップがあるとは私には感じられません。真剣に楽しく面白くしてくれる人が活動を継続させてくれます。継続できるからこそ活動の意味を真剣に考える人は、内容を充実してくれます。お互いに認め合っている関係ならあると思っています。何故、そうなるかは、当会は、互いに尊厳と全てに平等の内の組織だからです。どんなもんでしょうか。みんなで話し合いたい課題です。

活動の記録

今年は先ず、神奈川県との協働事業団体に、それが、FSC認証取得につながりました。活動は確実に充実しています。だが、わたしたちは森について殆ど無知です。最初の一歩を踏み出しただけです

The main headline reads: 「森林活用を図る」水源回収の道模索 (Exploring the Path to Water Source Recovery through Forest Utilization). The article discusses the relationship between forest management and water source recovery, mentioning the need for scientific methods and the potential for forests to serve as reservoirs. It also touches on the concept of 'forest capital' and its role in national wealth.

Other smaller articles and columns in the paper cover topics such as the impact of forest management on local economies, the development of forest products, and the protection of natural resources.



F S C 認証審査

6月19日 FM 予備審査

8月21日 FM 本審査

9月26日 COC 審査

10月25日 認証

SGS-FM-2323

SGS-COC 2331



森林現場審査風景



COC 審査風景；兼松邸



挨拶する小原町三役

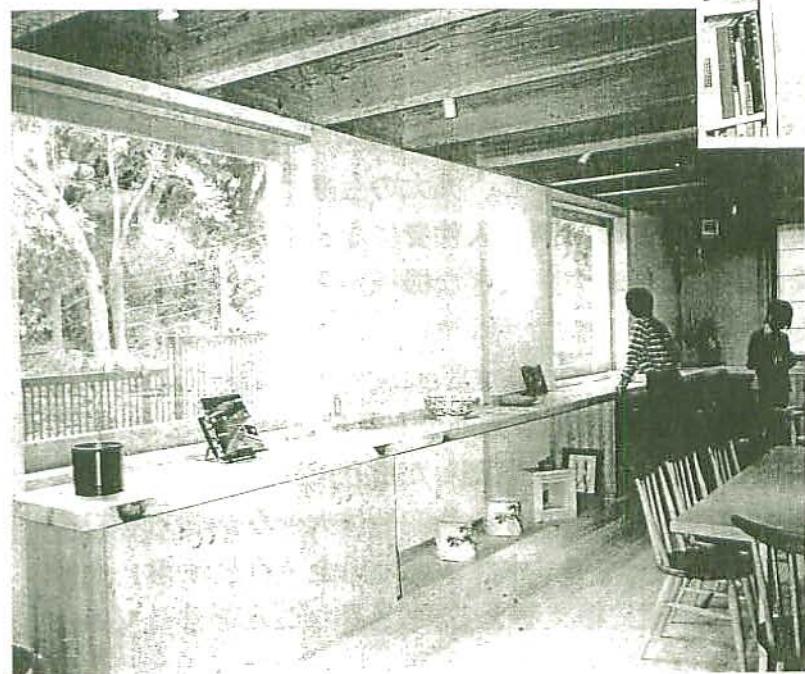
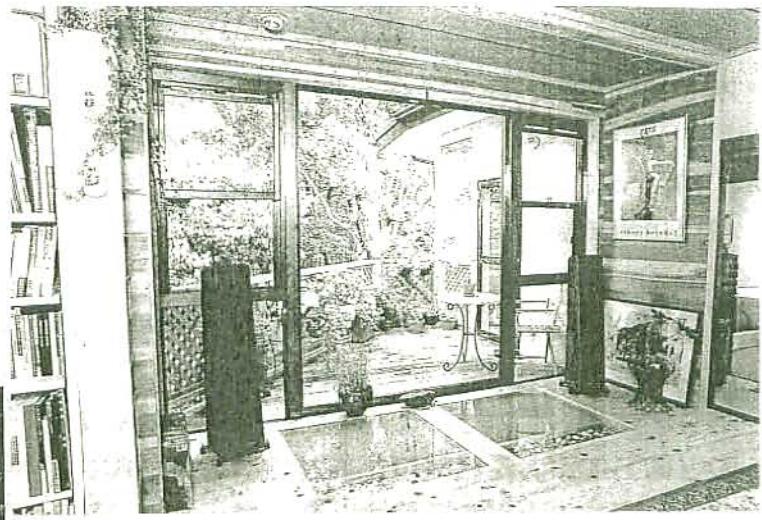


F S C 認証 : 左・森林認証、右・流通認証



どうしても県産材・流域材で家を建てたい
北鎌倉の森仲間：兼松まゆみが執念の家を
建てた：下。

どうしても県産材で家を建ててあげたい北
鎌倉の鈴木直子設計士がリホームを完成さ
せた：右



津久井の木で家を建てる

■水源環境政策を県民一丸で 団体役員 石村 黃仁63(東京都世田谷区)



森林の荒廃以外にもあ
るさまざまな問題に対応
の状況。

左上は先月19日の整備後
森の状況。

森林の荒廃以外にもあ
るさまざまな問題に対応
の状況。

だ。私が理事を務めるN
P.O法人「緑のダム北相
模」で、県と契約して荒
廃した森の整備に取り
組んではいるが(写真右
下は昨年4月の整備前、
左上は先月19日の整備後

森の状況)。

約三十八億円といわれ
る地球の森林は、無計画
な焼き畑農業・乱伐・盜
伐などで毎年約千万㌶ず
つ減っているそうだ。三
百八十年で地球から森林
がなくなる計算である。

身近な神奈川の緑に目
を移せば、林業が立ち行
かなくなつたため、森は
放置され、荒れるばかり
だ。私が理事を務めるN
P.O法人「緑のダム北相
模」で、県と契約して荒
廃した森の整備に取り
組んではいるが(写真右
下は昨年4月の整備前、
左上は先月19日の整備後

森の状況)。

森林システムはそのま
ま水源環境でもあるが、
現状ではほとんど壊滅状
態であるといわれる。現
在、県は多くの費用と時
間をかけて、この森林シ
ステムを保全・再生する
「水源環境政策」を検討
している。

県民がさらに、後世に偉
業を残したこと評価される
ことになるのだ。

森林システムはそのまま
水源環境でもあるが、
現状ではほとんど壊滅状
態であるといわれる。現
在、県は多くの費用と時
間をかけて、この森林シ
ステムを保全・再生する
「水源環境政策」を検討
している。

このように意味ある政策
の中身をいろいろな角度
から検討し、出費を精査
することは必要だろう。

功すれば、国内だけで
なく世界の
森林問題に
対して大き
な一石を投
じることに
なる。横浜
市は世界に
「かながわ発
展・世界の森
林を救おう」のメッセ
ジを発信すべきだ。

するため、岡崎前
知事時代に「かな
がわ発展・水資源
シンポジウム」が
始まった。松沢現
知事はこれを「水
源環境の保全・再
生」政策として引
き継いだ。先見と
英知の政策である。

森議会は広い視野と度
量、細心の配慮で検討し
てほしい。

神奈川県民は気概をも
つて、私たちに空気や水
を提供してくれる水資源
環境を「保全・再生」する
行動に取り組み、世界に

するため、岡崎前
知事時代に「かな
がわ発展・水資源
シンポジウム」が
始まった。松沢現
知事はこれを「水
源環境の保全・再
生」政策として引
き継いだ。先見と
英知の政策である。

森議会は広い視野と度
量、細心の配慮で検討し
てほしい。

神奈川県民は気概をも
つて、私たちに空気や水
を提供してくれる水資源
環境を「保全・再生」する
行動に取り組み、世界に

前回までは「森を生かす」でしたが、今回から「森を守る」にしました。私が所属する「桂川・相模川流域協議会」が「森をつくること、森を守ること」としたので統一性をもたせるためです。

さて、前回に引き続き価格のバラツキの件です。

山から伐り出された丸太は秦野の林業センターに集ります。製造業者は、そこから購入します。木目・木肌・節などを見て価格を決めます。野菜や魚の価格が卸売り市場のセリや入札で決まるのと同じです。その先は、製材機械の性能や、製材者の技術の差も出てきます。丸太も同じことが言えます。

神奈川には秦野の林業センターにしか材は集りません。しかし、丸太の金額は他県に比べて割高です。理由は、山からの伐り出しを人力に頼っているので割高人件費になっています。林道の問題もあります。林道密度が低ければ抜き出費が高くなります。大きな機械が入らなければ高い人力に頼らなければなりません。

紀州では林道も整備されていて、計画的に皆伐が成されています。大量の木材を一気に切り出すので伐出コストも下がります。皆伐は山の若返りという点で計画的であれば良いことなのです。以前、神奈川では、2ha位、皆伐したら新聞社が大騒ぎして大変だったそうです。神奈川の木の生長量は20万立米程ですから2haの皆伐は全く問題ないです。新聞社は大きな影響力を持っているので報道には、慎重であって欲しいものです。一昨年「水源環境の保全・再生政策」を議論していた県民集会で「針葉樹は全部伐採して、広葉樹に植え替える」と乱暴なことを言っている人もいました。そんなことをしたら、わが国の林業はお終いです。

この1年・・

「身を清め心を鎮めて正しき想いを決定(ケツジョウ)して実践する。規則正しい生活を過ごし集中して努力を重ね正業につく」。これは私の養父が言い残した言葉です。なかなかこのことを継続するのは難しいのですが、思い出しては念ずるようにしている内に、余り無理せず行動に移せるようになってきました。森林が心配だ、FSC認証の森にしようと口癖に言っているうちに、よしやろうと言う仲間が集って気が付いたら認証されていたという感じです。次は、「かながわ発、世界の森林を守れ」などと言い出して轟轟を買っています。でも、本気です。

活動のモットー：急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと・・・。

そして、沢山の参加で森はよくなる。

名 称：さがみ湖・森つくりの会：NPO法人緑のダム北相模/森林部会

事 務 局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodamu.jp/> E-mail : moritomo@rk9.so-net.ne.jp



協働団体：神奈川県(企画部、津久井行政森林部)

ご支援団体：WWFジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川建具組合

東急コミュニティ